

2021年12月21日

各 位

大阪信用金庫  
理事長 高井 嘉津義

特別調査

「2022年業況予測」と「新内閣に期待すること」について

☆まだら模様の2022年・・・景気「良くなる」21.1%増  
☆仕入高騰 値上できるか?・・・「転嫁できる」わずか36.5%  
☆くすぶる不安 迫るオミクロン・・・悪影響予想79.8%  
☆待ったなし経済対策・・・スピード期待84.0%

●まだら模様の2022年・・・景気「良くなる」21.1%増

2022年の日本の景気について、「景気が良くなる」は37.1%（前回比+21.1ポイント）に上昇し、「景気が悪くなる」は23.0%（前回比△33.9ポイント）に下落しました。

特に「大幅に悪化する」は5.1%（前回比△18.9ポイント）に激減し、最悪期は脱すると予想しています。

新型コロナ変異株（オミクロン株）が世界的に流行するなか、「横ばい推移」は39.9%、「少し悪くなる」は17.9%と5割を超え、厳しい見方をする企業も多く、景気はまだら模様の様相を呈しています。

●仕入高騰 値上できるか?・・・「転嫁できる」わずか36.5%

来年、自社の仕入価格は、世界的な原油高や資源不足を背景に、「上昇する」が61.9%（前回比+44.0ポイント）と大きく増加しました。その内、半分以上を販売価格に転嫁できるのは36.5%に止まり、収益の確保が期待できなくなっています。

●くすぶる不安 迫るオミクロン・・・悪影響予想79.8%

今後、新型コロナウイルス感染症が経済に及ぼす影響について、「大きな悪影響がでる」が33.2%、「少し悪影響がでる」が46.6%と8割が危機感を持っています。感染者数は減少傾向ですが、オミクロン株による影響は見通せず、慎重な見方が強まっています。

●待ったなし経済対策・・・スピード期待84.0%

岸田内閣の経済対策について、「大いに期待している」が10.2%、「少し期待している」が45.7%と5割を超える中小企業が期待しています。

また、その中で最も優先される対策は、「スピード感のある景気対策実施」が84.0%と突出しています。岸田内閣の一刻も早い具体的な施策の実行力を、中小企業は待ち望んでいます。

調査時点：2021年12月上旬

回答企業：685社（回答率39.7%）

調査方法：調査票郵送による調査（新型コロナウイルス感染症対策のため返信用封筒で回収）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL <https://www.osaka-shinkin.co.jp>